

平成29年度

山川中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①自分の考えをまとめ、文章で表現できる生徒の育成。
- ②基礎・基本の学習が定着し、主体的に学習に取り組んでいける生徒の育成。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 松本良江	委員 校長 寒川健治 教務主任 十川克己	教頭 川真田卓巳 研修主任 小林文芳	住友真人 1学年主任 石川真紀 2学年主任 三栖秀昭 3学年主任 横田正紀 国語主任 松本良江 数学主任 仁木島康文 社会主任 小泉博嗣 理科主任 小林文芳 英語主任 三栖秀昭
-----------------	-------------------------	-----------------------	--

校長

寒川 健治



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 朝の読書やセミナーの取り組みが全学年を通してきちんと静かに取り組んでいる。	①宿題やあゆみを欠かさず提出することができ、書く技能を身につけることができる。 ②国語(読み聞かせを通して読書の良さを知らせる。コラムの視写ができる。) ③数学(授業に進んで取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。提出物や課題に毎日欠かさず取り組むことができる。) ④社会(ワークブックを確実にすることで社会科の基本的語句、グラフ作成、読み取りなどの技能を身につける。) ⑤理科(理科ノート・探究の理科を提出し基礎学力の定着を図る。) ⑥英語(できるようになったことリストを活用し、できる喜びを感じられる生徒を育成する。)	①コラム提出率100%、自主勉強ノートやあゆみの提出率を95%にする。工夫が見られる自主勉強ノートや、豊かな内容のあゆみの提出になるように努める。 ②国語(読書冊数を年間一人20冊以上にする。) ③数学(課題(宿題)の提出率が90%以上にする。) ④社会(ワークブック等の提出率95%以上にし、小テストでも80%以上の正答にする。) ⑤理科(提出率を95%以上にする。) ⑥英語(できるようになったことリストの60%以上の項目に○がはいる。)	学習のめあて、方向性を明確にし、授業の終わりには本時のまとめ、自己評価の時間をとる。	①各学年、各教科とも課題提出率は90%を越えており、おおむね活動の狙いに沿った学習に取り組んでいる。	・各教科とも、小テストや確認テストの実施により、基礎・基本的な知識や技能を身につけている生徒が多くなっている。 ・全国学力学習状況調査や県ステップアップテストの結果においても、知識・活用とも平均正答率との差がプラスとなっており、全体としての学習の定着が見られる。
課題 書くことに苦手意識を持っている生徒が多く、語彙が少ない。学習習慣が確立していないため、基礎的・基本的な知識・技能の習得が難しい生徒がいる。	①朝の学習の時間にコラムの視写をする。 ②内容が充実した自主勉強ノートやあゆみを紹介する。 ③国語(定期的な読み聞かせの活動を根気よく続けていく。) ④数学(単元ごとに確認テストを行い、つまづきを早期に発見し、補充学習を行う。) ⑤社会(基本的語句の確認、作業等をワークブックを使って行い、基礎的・基本的な知識、技能の習得を図る。) ⑥理科(理科ノート・探究の理科の提出を年間5回させる。) ⑦英語(できるようになったことリストを年間4回活用させる。)	①月1回第3金曜日にコラムを視写する。 ②課題提出率80%以上にする。 ③国語(しっかり取り組めたクラスを多読賞として表彰する。) ④数学(小テストは正答率を70%以上にする。) ⑤社会(内容を精選した小テストを単元ごとに実施する。復習シートを活用する。) ⑥理科(小テストは正答率を70%以上にする。) ⑦英語(小テストは正答率を70%以上にする。)		評価 B	次年度における改善事項 ・個に応じた指導を徹底することでさらに学力を伸ばしていく。 ・引き続き、課題提出率90%以上、小テスト正答率を70%以上を目標として基礎・基本的な知識の定着をめざす。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 調べ学習で、決められたテーマに沿って調べたことを自分でまとめることができる。	アクティブ・ラーニングで(AL)で主体的・協働的に学ぶことができる。 目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを進んで話したり書いたりできる。	「自分の意見や考えをまとめて文章で書いたり、言語で表現したりする力が向上したと思う。」(自己評価)の割合を、70%以上にする。	話し合い活動や発表する機会をもつなど、授業改善を行う。(ホワイトボードの活用)	①各学年、各教科ごとの活動のねらいに沿った学習に取り組んでいる。 ②6月10月に、互いの授業を参観する研修を持ち、自己の向上に努めた。	・ICTやホワイトボードを活用した授業の工夫を図り、生徒が興味関心を持って授業に取り組めた。 ・「授業の教え方や教材が工夫されていて、わかりやすい授業を進めている」と思う生徒が90%を越えている。
課題 まとめた文章を書いたり、自分の意見をまとめて発表したりするのは苦手である。	①授業の目的を明確にする。根拠や理由を明らかにして自分の考えを説明できるよう指導する。 ②オープンクラスで、お互いの授業を見合っ、効果的な授業方法を学ぶ。 ③調べ学習にICTを利用する。	①「普段の授業で生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思うか」「当てはまる」という回答率を50%以上にする。 ②年2回以上、互いの授業から学ぶ研修の機会を持つ。 ③ICTの研修会を年1回以上実施する。		評価 B	次年度における改善事項 ・各教科や道徳、学活等で発表の機会を設け、自分の考えや心情を自ら言葉で表現できるようにする。 ・教師の指導力向上のため、さらなる積極的な授業公開やICTを活用した授業の工夫・改善を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 与えられた課題については真面目に取り組む、仕上げる事ができる。	①学ぼうとする意欲・意識を明確にし家庭学習や苦手な課題にも自分から取り組むことができる。 ②読書をする習慣をつける。 ③自己受容感、自己貢献感、自己責任感をもつことができる。	①「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習の充実を図る。 ②「家で、自分で計画を立てて勉強している」(自己評価)の割合を50%以上にする。 ③「自分の良さに気づいている」の割合70%以上にする。	・学習規律の明確化について見直す。(挨拶・2分前着席・授業準備) ・自分の課題を見つけ、考えを発表する機会を増やす。 ・生徒による「絵本の読み聞かせ」を通して、高揚感や達成感を養う。	①5月、1年生に「学習の手引き」を配付した。 ②宿題や復習の家庭学習にしっかり取り組むことができていた。	・「挨拶や規則正しい生活ができてい」と答えた生徒が95%であった。 ・規範意識が高く(98%)、学習の必要性を理解している。 ・「家庭学習にきちんと取り組んでいる」と答えた生徒が91%であった。
課題 自分から課題を見つけて取り組むことは苦手である。家庭での読書の習慣が身につけていない。	①授業の開始と終了に元気なあいさつができるよう指導する。 ②学習規律の明確化と、徹底を図る	①あいさつが「よくできた」(自己評価)の割合を95%にする。 ②生徒の学習意欲を高めるための研修会を実施する。		評価 B	次年度における改善事項 ・「自分の良さに気づける」自己肯定感や、達成感を持てるような機会を増やす工夫をする。 ・生徒が自ら課題を見つけ、主体的・協働的に活動する機会を増やす。 ・読書の習慣がつくようにする。

平成29年度 学力向上ロードマップ

